

天皇代替わりに際しての私たちの信仰表明

私たちは、信教の自由、政教分離を大切にしてきたバプテストでありながら、かつての大戦下、天皇を「現人神（あらひとがみ）」とする天皇制国家に膝をかがめ、天皇の軍隊による侵略戦争に加担し、アジア諸国の人々に甚大な苦しみを与える過ちを犯したことを深い痛みをもって告白しました（第42回年次総会『戦争責任に関する信仰宣言』1988年8月26日）。

「国民こぞって祝意を表すること」（「祝日法」^註）が求められ、天皇の即位に伴う諸儀式が行われていますが、何人もたとえ国家であっても、尊厳ある個人に「祝意」を強制することはできません。祝意は天皇によって与えられるものではなく、「今や和解を得させて下さったわたしたちの主イエス・キリストによって、神を喜ぶ」（口語訳ローマ5：11）者とされていることを、私たちは喜んで表明します。「（私たちが）まだ罪人であった時、わたしたちのためにキリストが死んで下さったことによって、神はわたしたちに対する愛を示された」（口語訳ローマ5：8）からです。

天皇代替わりの諸儀式は、天皇を再び「現人神」としようとするものであり、戦争責任告白に立つ私たちは、「神ならざるものを神とする」すべての企てに対して否を明確にし、十字架と復活において私たちの罪を裁きつつ赦す主イエス・キリストのみに聴き従い、「平和を実現する者」として主の和解のつとめに生きることを表明します。

2019年11月14日

日本バプテスト連盟第65回定期総会

※注 内閣府HPより

「天皇の即位の日及び即位礼正殿の儀の行われる日を休日とする法律」

〔趣旨〕 皇室典範特例法を踏まえ、天皇の即位に際し、国民こぞって祝意を表するため、即位の日及び即位礼正殿の儀が行われる日を休日（祝日の扱い）とする。